【第九十一号　二〇一二年　七月　五日発行】

福音の園だより

平成十八年度「高年齢者雇用優良事業所　協会会長賞」受賞
TBSラジオ『メイコのいきいきモーニング』取材紹介

グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定
３５０－００１６　埼玉県川越市木野目一八七八番地一
特定非営利活動法人　**福音の園・埼玉　事務局**
☎０４９－２３０－１１１１（FAX２３０－１１１２）

福音の園®、Gospelgarden®は　有限会社シャロンの商標

入居申し込み待機者ご家族の声

園便りに触れて、関わり方見直す機会に

「福音の園だより」ありがとうございました。今回も楽しく読ませていただきました。研修にいらした先生が「子供にとってもお年寄りにとっても、一人一人の個性を尊重し、寄り添っていくことが大事」と書いておられましたが、全く同感です。しかし、忙しかったり、疲れていたり、課題を抱えていたりするとつい父のことを思いやれなくなるのが現状です。このようなお便りに触れることで、自分の関わり方を見直すよい機会を与えられていると改めて思っているところです。

父は一〇日ほど前から腰や足を痛めています。助けを求めてきたので、一週間介護に行ってきました。「入院したい」「老人ホームに入りたい」「施設に入りたい」と訴えます。（中略）

入所者の皆さん、スタッフの皆さん、健康に留意して「愛の介護」の実践にお励み下さい。その実践に、まだ入所はしていませんが、お便りを届けてもらう立場の者として励まされています。（H・K）

新年度三ヶ月過ぎて ― 理念・方針説明

「モーツァルトの時代風に調律しました」

グループホーム　**福音の園・川越**　ホーム長　杉澤　卓巳

入居者・鈴木チエさん「満一〇二歳　長寿感謝記念コンサート」に先立ち、ピアノを調律していただいた。午前九時から六時間にも及ぶ入念な調律の後、ベテラン調律師さんから「普通のピアノより五Hz（ヘルツ）下げて四三五Hzに調律。当時の様子を偲ばせることを含めて、モーツァルトの時代に近付けてあります」と説明していただいた（注・モーツァルトの時代のピッチは、実際にはもっと低くてA=421Hz程）。

※　※　※　※　※　※　※

「製造番号3164番」が昨年七月、寄贈されたピアノの「生活歴」。調律師さん持参の文献には「1832年−1番、1865年−3000番、1875年−5000番」とあり（出典：PIERCE PIANO ATLAS）、推測で「一四七歳？」。

不思議なご縁で当園にやってきたピアノ。そして、お世話下さる調律師さんとの出会い。専門外の方との出会いはホーム管理者の「視界・裾野を広げてくれる図書館」のような存在。基本理念と運営方針を再確認させていただく貴重な「視点」を頂戴できた。

技術職の調律師さんがときに本音を吐露された。「この調律は何？　私のイメージに合わせてよ」とクレームが、明治末期から戦前以前に作られた古いピアノに寄せられることもあると述懐された。楽器本来の音色が発揮されるように調律するのに、そのピアノ、そのピアノの個性的な響きを引き出すよりも、新しいピアノに求めるような、ご自分のイメージを古いピアノにも求めてしまわれる業界裏話には共通点が垣間見えて、思わずうなずいてしまった。

「家族・利用者本位（優先）」の介護保険基本理念を踏まえた事業運営を心掛けているが、施設優先（職員の「勝手」）に流されぬよう自戒しながら、ケアプラン実行に日々苦心する介護現場と合い通じていた。

※　※　※　※　※　※　※

調律師さん曰く「時代の流れや技術の向上と共に、人間の探求とは違った欲求は変化してしまい、音楽にも大きな影響を与えています。モーツァルトの時代の音の高さでの演奏会なども数年前には、流行ったこともあります。時代にそぐわない楽器は好ましくないとされた。楽器は楽器なので寂しさを感じます」。鈴木チエさんが生まれ育った時代。明治・大正・昭和の時代を生きた「時」を、「生活歴一四七歳？」の古いピアノと重ね合わせて過ごす「満一〇二歳　記念コンサート」は、私たちにとって大切な「時」の一日となりました。

スタッフの声

園便りから、不安な顔が笑顔に

札幌で一人暮らしをしていた叔母が、埼玉のホームに入居が決まり、不安を感じ「行かない」と義妹に訴えたそうです。義妹が考えたあげく、毎月送って下さる園便りを持って行き、こんな楽しい事もあるんだよと活動風景の写真を見せたそうです。すると不安な顔ばかりしていた叔母の顔に笑顔が出たそうです。遊びに行くよという姪に「来てね」と言って引っ越して来ました。月に一度行く面会を楽しみに待ってくれています。私が気付けなかった事を義妹に教えられました。

入居者の皆さんが穏やかで安全な生活が送れます様精一杯お世話させていただきます。勉強続きの私ですが宜しくお願いします。（一階介護職・〇〇〇　〇〇子）

御礼

「写教聖書」（分冊・一〇冊）　（財）日本聖書協会様